





漢皇重色思傾國

まばらの中とくくって漢乃中とくくって  
うり白樂天の康成十二世のものがらんと  
的事とくくあゝ中とくくあゝをめり書事の  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
たはも美人のうりいふくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

都守多年来不得



あまのこころをいかにしむるに  
あまのこころをいかにしむるに  
あまのこころをいかにしむるに  
あまのこころをいかにしむるに  
あまのこころをいかにしむるに

○楊家有女初长成

楊家有女初长成，養在深閨人未識。

○養在深閨人未識

あまのこころをいかにしむるに  
あまのこころをいかにしむるに  
あまのこころをいかにしむるに  
あまのこころをいかにしむるに  
あまのこころをいかにしむるに

○天生麗質難自棄

天生麗質難自棄，一朝選在君王側。

あきふゆのうらやまのこころをわづらふ

○朝遠在君王側

あすけはさきかたのうらやまのこころをわづらふ

○回頭一笑百媚生

あきふゆのうらやまのこころをわづらふ

百媚生

○六宮粉黛無顏色

あきふゆのうらやまのこころをわづらふ

○春寒賜浴幸清池

あきふゆのうらやまのこころをわづらふ

○溫泉之清光

あきふゆのうらやまのこころをわづらふ

あきふゆのうらやまのこころをわづらふ

○侍見杖起嬌去力

まきぬの女房さら まきぬ のおしんもさく  
へくさくしぬるのさくさくはるはるの女房

○始是新義思淨時

のさくさくしぬるのさくさくはるはるの女房  
朝思さくさくしぬるのさくさくはるはるの女房

○雲鬢花初金步框

たのさくさくしぬるのさくさくはるはるの女房

のさくさくしぬるのさくさくはるはるの女房  
のさくさくしぬるのさくさくはるはるの女房  
のさくさくしぬるのさくさくはるはるの女房  
のさくさくしぬるのさくさくはるはるの女房

○芙蓉懐暖度春宵

のさくさくしぬるのさくさくはるはるの女房

のさくさくしぬるのさくさくはるはるの女房

○春宵若經日高起

のさくさくしぬるのさくさくはるはるの女房

酒宴いしむるあり

○後此君王不早朝

思く大唐の宰相の友のあり

去りし侍海院の出仕とす

侍海院の侍りて天子の

沖門のわたりし出仕とす

侍りて

○兼勲侍宴玄深

より

春後

○春後

春宵一刻價千金

春宵一刻の

事一人

○後宮佳麗三千人

後宮佳麗の

三子

○三子

寵を一身

江...  
人...

○金屋粧成嬌侍夜

...

○玉樓宴罷解和春

...

...

...

○姊妹弟兄皆列士

...

...

○可憐光彩生門戶

...

...

...

○遠令天下父母心

...

...

...



不重生男重生女

不重生男重生女

不重生男重生女

不重生男重生女

驪宮高處入青雲

驪宮高處入青雲

驪宮高處入青雲

心樂風飄處

心樂風飄處

心樂風飄處

心樂風飄處

後詩慢舞新綠竹

後詩慢舞新綠竹

後詩慢舞新綠竹

後詩慢舞新綠竹

盡日君王看不足

盡日君王看不足

盡日君王看不足

漢湯犂牛敏動地來

東漢山一絡く可なり天雷六年一

まのりあつたるをいふるは

かたはま東もいふるは

あつたるはあつたるは

くはあつたるはあつたるは

揚國忠一

あつたるはあつたるは

あつたるはあつたるは

よと時一東漢山一

あつたるはあつたるは

東漢山一

あつたるはあつたるは

人ふの天東十四年一

あつたるはあつたるは

あつたるはあつたるは

あつたるはあつたるは

あつたるはあつたるは

河内... 事... 山... 花...  
の... 物... 又... 時...  
と... 天地... 又...

○驚破霞裳羽衣曲

大... 屋... の... の...  
あ... の... の...

し... の...

○九重城闕增慶生

天子の... 九重... 天... 十四年

... 十... 大... 帝...

... 大... 合...

... 楊... 忠... 司...

... 司... 以...

... 長... 司... 司...

わんせしんまろ

○千葉百騎西南行

しんせいのちしんまろしんせいのち

せしんまろしんせいのち

○翠華揺に行復止

しんせいのちしんせいのちしんせいのち

てしんせいのちしんせいのち

○西出都門百餘里

せしんまろしんせいのちしんせいのち

しんせいのち

○六軍不敵無奈何

あしんせいのちしんせいのち

のしんせいのち

○死轉蛾眉馬前死

あしんせいのちしんせいのち

あしんせいのちしんせいのち

あしんせいのちしんせいのち

あしんせいのちしんせいのち



しらのしるしをいふは

多かりていふは

○君王掩面救不得

ま家ののまゝなりていふは

しるしをいふは

○回頭血淚相和流

しるしのまゝなりていふは

しるしのまゝなりていふは

○黃埃散漫風蕭索

しるしのまゝなりていふは

しるしのまゝなりていふは

○雲梯業行望鉤閣

しるしのまゝなりていふは

しるしのまゝなりていふは

○識漏山下抄人行

しるしのまゝなりていふは

しるしのまゝなりていふは

○旌旗去苑日色薄

しるしのまゝなりていふは

あはれなるにささげしき  
あはれなるにささげしき  
あはれなるにささげしき  
あはれなるにささげしき

蜀江水碧蜀山青

あはれなるにささげしき  
あはれなるにささげしき  
あはれなるにささげしき  
あはれなるにささげしき

望主朝の言の情

あはれなるにささげしき  
あはれなるにささげしき  
あはれなるにささげしき  
あはれなるにささげしき

あはれなるにささげしき  
あはれなるにささげしき  
あはれなるにささげしき  
あはれなるにささげしき

行宮見月傷の色

あはれなるにささげしき  
あはれなるにささげしき  
あはれなるにささげしき  
あはれなるにささげしき

夜雨南鈴鳴の聲

あはれなるにささげしき  
あはれなるにささげしき  
あはれなるにささげしき  
あはれなるにささげしき

あはれなるにささげしき  
あはれなるにささげしき  
あはれなるにささげしき  
あはれなるにささげしき

可  
天  
地  
轉  
回  
勢  
駁

○天施地轉回勢駁

天施地轉回勢駁  
日月の  
勢駁  
天子の  
創以  
靖  
不  
能  
去

○馬嵬坡下泥古中

○不見玉顏空死處

馬嵬坡下泥古中  
不見玉顏空死處  
君臣相顧  
衣  
月  
緜  
客  
色  
年  
少  
心  
事  
空  
悲  
心  
事  
空  
悲



東都門信馬場

東都門信馬場

東都門信馬場

東都門信馬場

飯東池苑皆依舊

飯東池苑皆依舊

飯東池苑皆依舊

飯東池苑皆依舊

太液芙蓉未失柳

太液芙蓉未失柳

太液芙蓉未失柳

太液芙蓉未失柳

芙蓉如面柳如眉

芙蓉如面柳如眉

芙蓉如面柳如眉

芙蓉如面柳如眉

對此如何不淚垂

對此如何不淚垂

さしあけらるる

春風桃李花開日

春風桃李花開日

桃李乃此花

其日一友

よふ

あふ

あふ

秋雨梧桐葉落時

あふ

あふ

あふ

あふ

西文南苑多秋草

あふ

あふ

庭葉滿階紅不掃

あふ

ふらり〜

梨園才子白髮新

~~あはれ~~〜

〜

あはれ〜

あはれ〜

柳房阿監青娥乞

あはれ〜

あはれ〜

と〜

夕殿雲影思情絲

あはれ〜

あはれ〜

あはれ〜

疏燈挑尽末法眠

あはれ〜

あはれ〜

暎〜 稀飯初長夜

あはれなるかな

○**秋**の早何欲**曙**天

あはれなるかな

○**鳥**の身冷霜華重

あはれなるかな

あはれなるかな

○**猪**の食寒誰と共

あはれなるかな

○**悠**の生死別神年

あはれなるかな

あはれなるかな

魂魄不曾來入夢

よの半乃ていりゆめのみあはれむ

あはれむゆめいりゆめいりゆめいりゆめ

あはれむゆめいりゆめいりゆめいりゆめ

陳邛道士鴻都客

あはれむゆめいりゆめいりゆめいりゆめ

能以精神收魂魄

この道ぞうしうくしうくしうくしうく

存感君王展轉思

あはれむゆめいりゆめいりゆめいりゆめ

あはれむゆめいりゆめいりゆめいりゆめ

あはれむゆめいりゆめいりゆめいりゆめ

あはれむゆめいりゆめいりゆめいりゆめ

遠教方士殷勤覓

あはれむゆめいりゆめいりゆめいりゆめ

あはれむゆめいりゆめいりゆめいりゆめ

桃風馭氣奔山電

あはれむゆめいりゆめいりゆめいりゆめ

仙人乃所<sup>ゆ</sup>と<sup>り</sup>て<sup>り</sup>か<sup>き</sup>た<sup>り</sup>風<sup>の</sup>大<sup>の</sup>  
山<sup>の</sup>上<sup>に</sup>有<sup>り</sup>る<sup>事</sup>也<sup>なり</sup>

○升天入地東<sup>の</sup>入<sup>る</sup>通<sup>る</sup>

可<sup>し</sup>く<sup>も</sup>い<sup>ふ</sup>事<sup>は</sup>も<sup>と</sup>ま<sup>ら</sup>ず<sup>に</sup>金<sup>の</sup>輪<sup>を</sup>持<sup>て</sup>

て<sup>り</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>事</sup>也<sup>なり</sup>

○上<sup>の</sup>宮<sup>に</sup>有<sup>り</sup>る<sup>石</sup>落<sup>下</sup>る<sup>泉</sup>

る<sup>事</sup>也<sup>なり</sup>天<sup>上</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>事</sup>も<sup>と</sup>ま<sup>ら</sup>ず<sup>に</sup>天<sup>上</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>事</sup>も<sup>と</sup>ま<sup>ら</sup>ず<sup>に</sup>天<sup>上</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>事</sup>も<sup>と</sup>ま<sup>ら</sup>ず<sup>に</sup>

○女<sup>の</sup>處<sup>に</sup>在<sup>る</sup>皆<sup>不</sup>見<sup>る</sup>

天地<sup>の</sup>中<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>事</sup>も<sup>と</sup>ま<sup>ら</sup>ず<sup>に</sup>天<sup>上</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>事</sup>も<sup>と</sup>ま<sup>ら</sup>ず<sup>に</sup>天<sup>上</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>事</sup>も<sup>と</sup>ま<sup>ら</sup>ず<sup>に</sup>

海<sup>の</sup>中<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>事</sup>也<sup>なり</sup>

○忽<sup>と</sup>南<sup>の</sup>海<sup>上</sup>有<sup>り</sup>る<sup>仙</sup>山

道<sup>の</sup>中<sup>に</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>事</sup>也<sup>なり</sup>

と<sup>い</sup>ふ<sup>事</sup>も<sup>と</sup>ま<sup>ら</sup>ず<sup>に</sup>天<sup>上</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>事</sup>も<sup>と</sup>ま<sup>ら</sup>ず<sup>に</sup>天<sup>上</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>事</sup>も<sup>と</sup>ま<sup>ら</sup>ず<sup>に</sup>

と<sup>い</sup>ふ<sup>事</sup>も<sup>と</sup>ま<sup>ら</sup>ず<sup>に</sup>天<sup>上</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>事</sup>も<sup>と</sup>ま<sup>ら</sup>ず<sup>に</sup>天<sup>上</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>事</sup>も<sup>と</sup>ま<sup>ら</sup>ず<sup>に</sup>

と<sup>い</sup>ふ<sup>事</sup>も<sup>と</sup>ま<sup>ら</sup>ず<sup>に</sup>天<sup>上</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>事</sup>も<sup>と</sup>ま<sup>ら</sup>ず<sup>に</sup>天<sup>上</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>事</sup>も<sup>と</sup>ま<sup>ら</sup>ず<sup>に</sup>

○山<sup>の</sup>在<sup>る</sup>處<sup>に</sup>云<sup>は</sup>縹<sup>緲</sup>河<sup>也</sup>



九正襟表易魂驚

~~~~~

~~~~~

~~~~~

○ 攬衣推花起徘徊

~~~~~

○ 珠箔銀屏遙迤邐

~~~~~

~~~~~

○ 雲鬢半偏新睡覺

~~~~~

~~~~~

○ 花冠不整下臺來

~~~~~

~~~~~

~~~~~

○ 風吹仙袂飄飄舉

~~~~~



あはれなる  
たは霞裳羽衣舞  
まのすゝめ  
霞裳羽衣

玉若宮実御  
御

あはれなる  
あはれなる  
あはれなる

梨苑一枝春  
雨

あはれなる  
あはれなる  
あはれなる

あはれなる

合精勤時  
附君王

あはれなる  
あはれなる  
あはれなる

あはれなる

あはれなる

別音  
各取御流

あはれなる  
あはれなる  
あはれなる

白梅に似たりとて人ぞよみしむらさき  
昭陽殿裏思愛絶

平生とてまこととて

遠来宮中日有長

伊昔の思恋とてあえとて

月夜に似たりとて

花の香もあはれとて

雪の白もあはれとて

るり

回頭下望人寰處

人寰とて天子のめとて

不見長安見蒼瘴

の對もあはれとて

可なりとて

あはれとて

唯將舊物表深情

市女とて

てきふりうらみおのゝこゝろを

あしうきくははしりつゝうき

○細合金 釘寄將古

くはりてうきをうきうき

きちうらみ<sup>君</sup>のまゝ

うきうきうきうき

○釘 盤 一 股 合 一 扇

うきうきうきうきうき

うきうきうきうきうき

わうらうらうらうら

○釘 盤 青 金 合 合 釘

うきうきうきうきうき

○便 合 心 似 金 細 堅

うらうらうらうらうら

うきうきうきうきうき

○天 上 人 向 會 相 見

君のうきうきうきうき

うきうきうきうきうき

御  
傳別殿勅宣壽詞

之上のん〜時

〜市ち〜く〜

ら

○詞中有折言友心知

〜新のら〜

○七月七日長生殿

〜先〜

○夜中玄人紅語時

〜~~ま~~〜

〜

〜

○在天形以翼鳥

〜

〜

○在地願為連理枝

あはれなるをいふ事をもていかにあはれなる

りしりあはれなるをいふ事をもていかにあはれなる

○天長地久有時尽

○此恨綿綿無絶期

あはれなるをいふ事をもていかにあはれなる

あはれなるをいふ事をもていかにあはれなる

あはれなるをいふ事をもていかにあはれなる









